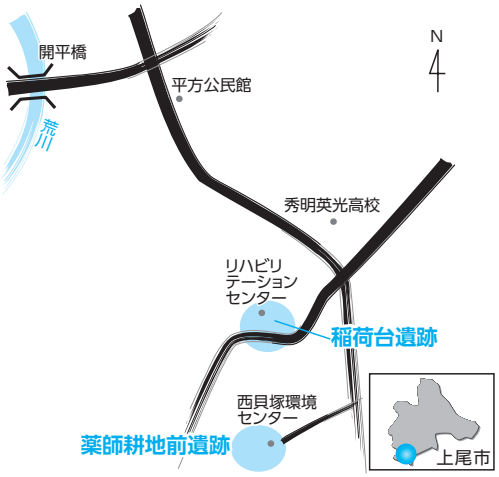
上尾歴史散歩 281

遺跡が語る上尾の歴史

# 有力者の墓
## ～薬師耕地前遺跡の方形周溝墓群～

写真１　薬師耕地前遺跡で確認された方形周溝墓（昭和51年）




昭和51年、西貝塚環境センターの建設予定地で、薬師耕地前遺跡の発掘調査が行われた。その結果、弥生時代末期から古墳時代初めの住居跡の他、方形周溝墓と呼ばれる遺構が確認された（**写真１**）。方形周溝墓は溝を方形に掘って区画し、内側に土を盛って中央に遺骸を埋葬した墓である。上尾市域では10メートル四方程度の規模が一般的で、溝によって大きく区画されて造られていることや鉄製武器・装飾品などの豪華な副葬品があることなどから、古墳が定着する以前に、地域の有力者が葬られた墓と考えられている。

薬師耕地前遺跡では７基の方形周溝墓が確認され、それぞれの溝から壺・甕・高坏などの墓に供えられた土器が出土した（**写真２**）。特徴的なのは壺形土器の底に穴が開けられており、副葬用として日常生活で使う土器と区別されていることである。また２基の方形周溝墓には遺骸を埋葬した主体部が残存しており、葬られた人物の権威を示す鉄剣やガラス製の玉、石製の管玉などの装飾品が出土した（**写真３**）。このような葬送の方法は、当時の先進地域である西日本から稲作の技術などと同時に伝わってきたと考えられている。薬師耕地前遺跡に葬られた人々は稲作の指導や他集落との調整を行い有力者となっていったのであろう。また住居跡を壊して造られている方形周溝墓があることから、当初は集落だった場所に次第に墓を造るようになったと考えられる。

この遺跡の北東には稲荷台遺跡が広がっている。県立リハビリテーションセンター建設に伴って発掘調査が実施され、薬師耕地前遺跡より少し後の時代の住居跡が60軒以上確認された大集落跡である。薬師耕地前遺跡の集落で生活していた人々が移って形成した集落の可能性がある。

薬師耕地前遺跡は当時の葬送方法や文化が上尾市域にも伝わっていたことが分かったとともに、遺跡周辺の人々の動きなど地域の歴史を復元する上でも重要な遺跡である。（上尾市生涯学習課）

写真２　方形周溝墓から出土した土器

写真３　主体部から出土した管玉（左）とガラス玉（右）

## コラム column
### 坂上遺跡の方形周溝墓と底部穿孔土器

上尾市内には18基の方形周溝墓が確認されている。瓦葺の坂上遺跡で見つかった方形周溝墓は薬師耕地前遺跡と同様に主体部が残存し、鉄剣や玉類が出土した（**写真１**）。荒川流域に伝わった葬送方法が、上尾市東部の綾瀬川流域にも伝わっていたことが分かった。

方形に掘られた溝のそれぞれの角には壺形土器が供えられていた。当時の特徴として壺形土器の底に穴を開け、日常生活で使う土器と区別している点が挙げられる。この土器は底部穿孔土器と呼ばれている。坂上遺跡では穴の開いた底部が土器の近くに捨てられていた。さらに土器を焼く前に穴を開けた土器も出土した（**写真２**）。この土器は最初から方形周溝墓に供えるために作られたと考えられ、焼いた後に穴を開ける土器より後の時代のものである。遺跡内での葬送方法の移り変わりや、土器の使用方法を解明する手掛かりとなる土器である。

写真１　出土した管玉（左）と鉄剣

写真２　焼く前に底部に穴を開けた土器